



卒業を祝して

歯学部長 前田 健康

歯学科第51期生の皆さん、口腔生命福祉学科第14期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本日めでたくご卒業される皆さんに、歯学部教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。また、保護者をはじめご家族の皆様におかれましては、今日の卒業の日を無事に迎えることができましたことを心よりお祝い申し上げます。

2020年は新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大により、大学教育に大きな支障をきたしました。特に、歯学部教育の総仕上げといえる臨床実習、現場実習の中断・縮小をもたらし、大変な心配と迷惑をおかけしました。このような中で、卒業生の皆さんは私ども新潟大学歯学部が卒業生に求める能力を獲得し、本日、学士の称号を与えられ、この春から、歯科臨床研修医、歯科衛生士、福祉職、行政職、大学院への進学等、さまざまな道に進まれます。各人の進む道は異なるものの、歯科医学・医療、口腔保健・福祉に携わり、国民の健康の維持・増進に寄与するという皆さんの目標は同一であると思います。

新潟大学歯学部が設置されて半世紀を超えましたが、この間、歯科界を含め、社会状況は大きく変化し、また変化し続けています。2021年から先の日本の将来はどうなるのでしょうか？令和3年1月4日付の日経新聞に「2021年から始まる日本」と題する論説記事（芹川洋一）が掲載されていました。それによると、「日本の近現代史をひもとくと、15年周期（昭和後期の社会学系の識者による）または25年単位（吉見俊哉著「大予言」）で、時代が区分けされるといいます。その起点は1945年の終戦であり、2020年が戦後75年で区切り

の年、そして今年2021年は76年目にあたります。筆者はこの2021年は新しい時代を切り開いていくための始まりの年になると考えておきたい」と稿を閉じています。今は大変なときですが、皆さんが卒業し、社会にはばたくこの2021年は新たな時代の始まりと考えましょう。

大学を出てから社会人としての学びの時間は40年以上に及びます。平均寿命が延びる中、学びの時間はますます増えていきます。皆さんが大学で学んだ4ないし6年間は人生の学びの時間の10～15%にしかなりません。現代は厳しい競争社会です。社会は皆さんのさらなる努力による社会への貢献を求めています。これからの努力が皆さんの人生・将来に関わってきます。歯科医療・口腔保健従事者という職業を真摯に受けとめながら、プロとしての自信と勇気を持って、社会に対して積極的に貢献することを目指してください。皆さんが卒業する新潟大学歯学部の運営は国民の税金により行われているといっても過言ではありません。タックスペイヤーである国民は皆さんに対し、常に幅広い教養、豊かな感性、きびしい倫理感を求め続けます。また専門的知識や技術を維持・向上させる責任も求めるため、皆さんには常日頃の精進が不可欠となります。さらにはウィズコロナ、ポストコロナの新しい生活様式、社会スタイルの中でも、皆さんが社会から認められるために、今日の卒業式の日、これからの長い人生に向けて新たな目標を設定しましょう。

政府は、狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、我が国が目指すべ

き未来社会Society5.0を提唱しています (https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html)。Society 5.0の目指すところは、IoT (Internet of Things) や人工知能 (artificial intelligence : AI) を活用して、これまでの情報社会 (Society 4.0) における少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などのさまざまな現代社会の課題を克服することです。また、地域といった国内だけでなく、広く巨視的な観点をもって活躍をお願いします。すなわち、グローバルな志です。グローバル化への対応は単に英語でコミュニケーションをとることだけでなく、重要なことは異文化、自分と異なる価値観を持つ人達の理解、すなわち多様性 diversityの理解です。グローバル化が進む多様性の時代で活躍するために必要なのは、異文化適応性、言語能力、法令遵守、そし

て専門能力といわれています。皆さんのこれからの活躍には、専門能力を常に高め、維持することが不可欠なことはいうまでもありません。

本日、新たな夢を胸にスタートラインに立つ皆さんを、私ども教職員一同はこれからも応援していきます。卒業する皆さんには、折を見て母校を訪ね、また生涯の学習の場として、これからも新潟大学歯学部を積極的に活用していただけるように願っています。皆さんが今日巣立っていく新潟大学歯学部はすばらしい教育資源を有し、国内外から高い評価を受けています。私ども教職員は皆さんに対し、これからの社会で勝ち抜くために必要な考え方、知識、技能、態度を授けてきたと自負しています。新潟大学歯学部を卒業したという誇りを持ち、活躍して下さい。皆さんの今後の活躍を大いに期待してします。





卒業を祝して

医歯学総合病院 副院長 小林 正 治 (歯科担当)

歯学科第51期生ならびに口腔生命福祉学科第14期生の皆さん、卒業誠におめでとうございます。皆さんが歯学部での課程をすべて修了され、晴れて学士の学位を授与されました栄誉をここに称えますとともに、これからの希望に満ちた未来に対して心から祝福を申し上げます。また、この日に至るまでの長い年月、卒業生を支えてこられたご家族・ご親族の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。

皆さんは、本学に入学した時の夢や想いを覚えていますでしょうか。卒業を迎えた今、今一度皆さんのこれからの夢を思い描いてください。医療人として、どんな人生を歩んでいきたいかを考えてください。大学での学びを通して、皆さんは物事を考える視野の広がりや知識の豊かさ、正しい判断力や理解力が養われて、人間としても大きく成長したものと思います。医療の進歩は日進月歩です。過去の常識が非常識に変わることもあります。皆さんが医療人としてさらに大きく育つためには、思い描いた将来像を目標として、これまでに得た知識や技術を基礎として、その上に何を積み重ねていくかが勝負になります。

われわれが直面している問題の多くには、明確な答えがありません。解決への対策を考える際にも、複数のアプローチ法がある場合もありますし、これが正解だといえる答えのない問題もあります。現在、地球上の至る所で、感染が拡大している新型コロナウイルスもその典型例ではないで

しょうか。1年余り前に始まったコロナ禍は、依然として収束の気配すらありません。皆さんも、日常生活から大学での授業や臨床実習に様々な制限がかけられて苦労した1年であったと思います。われわれ教員も、教育のレベルをできるだけ維持できるように対応してきたつもりですが、難しい対応を迫られた1年でした。このような未知の問題に対応する際には、これまでに蓄えた知識を基にして問題の原因を探り、広い視野から問題の解決策を考える知性が求められます。現在、解決策の一つとして、様々な研究機関や製薬会社によってワクチンや治療薬が開発されていますが、収束までもう少し時間がかかりそうです。しばらくは、医療の現場でも状況に合わせた難しい対応を求められると思います。また、「コロナ後」の世界がどのように変わるのかも、予測が難しいところです。

皆さんは、そのような難しい時代に向かって、これから羽ばたこうとしています。新たな時代を生き抜き、そして光り輝き続けるためにも、皆さんには知的好奇心を失うことなく、医療ニーズの変化に的確に対応できるよう、一步一步努力を重ねていただきたいと思います。新潟大学歯学部ならびに医歯学総合病院歯科診療部門は、皆さんの医療人としての人生の道標となるよう、これからも支援をいたします。大学から巣立つ皆さんが、様々な分野で活躍されること心より願っています。期待しています。頑張ってください。

卒業生から

卒業にあたって

歯学科6年 石坂 瑠音

6年間、中学高校を足した年数を大学で過ごしたと思うと、とても長い日々だったと思います。2020年大晦日の紅白歌合戦で、嵐が活動休止を迎えました。小学校の頃から行事の際には必ず嵐の歌があったので、私達の青春の1つに幕が降りたというか、なんだか大人になったなあと、そんな気持ちを感じながら、6年間を振り返っています。

印象深い思い出といえば、6年生の大半は臨床実習と答えるのではないのでしょうか。

5年生半ばからの臨床実習は、私にとっても最も濃い1年でした。その中で私が得られたものは、本当に大変なときに手を差し伸べてくれる友人の存在でした。私が追い詰められている時、自分だって大変なのに心を砕いてくれる友人に何度も救われました。一緒に泣いて笑って、そうやって前を向いてこられたのは友人のお陰です。本当にありがとう。

そういえば、6年生の私の誕生日の時は、誕生日だと言うことも忘れるくらい忙しくて大変でした。私が一区切りつくまで皆がじりじりと待ち構えてくれていて、申し訳ないやらありがたいやら、ちょっと可笑的いやら。お祝いしてくれて、とても嬉しかったです。プレゼントの100%遮光の日傘には、これからもたくさんお世話になる予定です。大切にしますね。

先生方にも、大変お世話になりました。授業、診療、研究と多忙の中で、私達の診療の指導も熱心にして下さいました。学ぶことばかりで、5年生までの教科書的な知識が急速に立体的になり、自分の成長を感じられる1年でした。

本当にありがとうございました。

臨床実習に協力して下さった患者さんには、診療の時間がかかったり、スムーズに行かなかったりと、ご迷惑をお掛けしました。私が初めて受け持たせていただいた方々のことは、絶対に忘れません。診療に協力していただいて、本当に感謝しております。ありがとうございました。

そして、私が歯学部を目指すといった時、応援してくれた母へ。一人暮らしをすることになって、本当にこの子は一人で生きていけるのだろうか、多大な心配をかけたと思います。私も心配でした。でもなんだかんだ生きてこれました。貴方の娘は意外と逞しく育ったようです。これからもお世話になると思うけど、大学生活を支えてくれてありがとう。お陰で無事に卒業することができます。

COVID-19の感染拡大によって、生活は様変わりしました。これから先も、社会が、生活が、どうなるか分かりません。生きているというのは、苦しいことに囲まれています。だからどんな道を選択をしても、毎日生きて、生き抜いて、1歩足前を出して、進んでいきましょう。

卒業おめでとう。新しい環境に踏み出す私達が、多くの幸せに出会えますように。



誕生日の時の写真（筆者は手前中央）
写真撮影時のみマスクを外しました

6年間を終えて

歯学科6年 相馬 歩

2020年、世界中に蔓延した新型コロナウイルスにより、私たちの6年目は大きく影響を受けました。臨床実習は4月から約3ヶ月間中断し、この先どうなるか誰もが分からないという不安の中、時間が経過していきました。「普通のこと」が制限される日々は、生きづらい毎日でした。しかし、このような状況の中で、改めて気づけたことがありました。当たり前だと思っていることにもっと感謝するということです。意識を変えたことで、臨床実習再開後、今まで以上に将来の歯科医師像を考えながら、一つひとつの勉強と実習を積み重ねることができたと思います。面白い！もっと学びたい！と思えるような分野が増えて、自分の中での選択肢の広がりを実感できました。患者さんのQOL向上に貢献できる歯科治療を自ら経験できたことは、私にとってはとても印象深く残っています。「好きなものをたくさん食べられるようになった」と笑顔で語ってくださった患者さんとの会話は一生忘れることはありません。また1～5年生までの勉強の蓄積の大切さを実感しました。特に解剖学や生理学といった基礎系の知識が臨床とリンクした時、歯学の面白さを痛感しました。後輩にメッセージを送るとしたら、「今から勉強を頑張ると、最後の臨床実習がより充実したものになるよ！ファイト！」です。また6年間の集大成としてこのような経験ができたことは、多くの先生のご尽力があってこそ成立したことです。貴重な機会を与您いただき、本当にありがとうございました。

勉強だけでなく、学生でしかできないことを全力で取り組もうと駆け抜けることができました。硬式テニス部での活動では、学内にとどまらず多くの仲間と出会うきっかけとなりました。テニスを通じて互いを高め合える存在ができたからこそ、今の私があるのだと思います。このような学生生活を過ごせた私はとても幸せ者です。コロナウイルスが終息して、みんなでもたテニスができる日を楽しみにしています。先輩・同期・後輩そして部活を支えてくださいましたOBOGの方々に、この場をお借りして感謝申し上げます。

最後になりますが、この6年間色々な場面で多くの人の支えがあったからこそ、無事に卒業できたのだと思います。学生時代に培った人との繋がりは一生ものであり、これからも先輩・同期・後輩の繋がりを大切にし、歯科医療に関わる同志として切磋琢磨していきたいです。この6年間を糧にこれから「真の強さ」を持った歯科医師として、本当の意味で患者さんのためになれるよう努めていきます。6年間ありがとうございました。



歯学部男子硬式テニス部員
2018年8月撮影

卒業を迎えて

歯学科6年 南山春菜

地元を離れ初めて新潟に来た日から、早いもので6年が経ちました。1年生の時に初めて早期臨床実習で6年生の先輩に担当してもらったとき、私はまだ歯科の専門用語も分からず、6年生ってすごいなあ、私もあんな先輩になれるかなあと感動したのを覚えています。あれから随分と月日が流れ、あの時憧れていた6年生になり、今年私たちは卒業を迎えようとしています。

まずは、これまで関わっていただいたすべての方々に感謝します。お父さん、お母さん、6年間本当にありがとうございました。今思い返せばこれまで苦労や心配をかけてしまったことの方が多い気がします。感謝の気持ちを直接伝える機会がなかなかないので少し恥ずかしいですが、受験の時から卒業するまでずっと影で支えてくれたおかげで私は最後まで挫折せずにやってこれたのだと思います。ありがとうございました。

そして、大学の先生方、大変お世話になりました。6年生になり、無我夢中の毎日でしたが、不慣れな私たちに対して日々熱心に指導してください本当に感謝しております。診療時間外でもご多忙の中私たちへ多くのことを教えていただき、ありがとうございました。先生方が患者さんと接している姿を間近でみて、治療の方法だけでなく医療従事者としての姿勢を学ぶことが出来ました。いつか先生方のようになれるよう、私たちもこれから精一杯がんばります。

今年はコロナウイルスが全国で蔓延し、臨床実習も途中で中止期間がありました。次々と変化する毎日に不安を覚え、学生である私たちも一医療従事者として、今までになかった対応をしなければなりません。マスクをしないと外に出る

ことができない世の中になり、毎日増加する感染者数に怯えながら生活する日々がいつまで続くのかは分かりませんが、医療従事者である限り、こういった突然の変化に対応する力というのはきっとこれからも求められるのだらうと思います。

6年間、振り返れば楽しいことや嬉しいことより辛いことや大変だったこと、我慢しなければいけなかったことのほうが多かったような気がします。それでも、そんな辛かったこともすべて含めて私にとってはとっても楽しく大切な6年間でした。できた喜びとできない悔しさを忘れず笑顔をつくることのできる歯科医師になりたいと思います。

最後に、同期の37名のみんな、6年間ありがとうございました。51期でよかった。とても楽しかったです。同じ目標に向かって何年も一緒に戦ってきた仲間です。辛いことも悲しいこともみんながいたから笑って乗り越えられたし、すべて素敵な思い出になりました。20代の大切な時間に一緒にいてくれてありがとう。これから別々の場所に行くけれど、いつかまた歳をとって、あの時こんなことがあったよねと笑える日が来るのを楽しみにしています。それまでお互いがんばらうね。



技工室にて
写真撮影時のみマスクを外しました

卒業にあたり

口腔生命福祉学科 4年 林 唯 香

新潟大学歯学部口腔生命福祉学科に入学してから早くも4年がたち、今卒業を迎えようとしています。この4年間口腔生命福祉学科で過ごす中で、歯科衛生士及び社会福祉士の知識や技術について学び、大学生活の中で大切な思い出もたくさん作ることができました。大学生活を振り返り、特に印象深い臨床実習と部活動について述べていきます。

まずは3年後期～4年生の臨床実習についてです。実習においては、実際の診療を通じた技術や知識を得ることももちろん、患者さんや他職種の方とのコミュニケーション能力を育むことができました。

実習開始時は自分の未熟さにもどかしさを感じることもありましたが、しかし、診療の補助の回数を重ね、先生方や歯科衛生士の方々からアドバイスをいただくことで、次第に自信をもって補助を行えるようになりました。

患者さんに直接スケーリングなどの処置を行った後に、「ありがとう、おかげでスッキリした！」と笑顔で伝えられた時には、達成感で胸がいっぱいになり、もっと技術を磨こうと向上心が沸き上がりました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、通常より短い期間ではありましたが、非常に有意義な実習でした。

次に私が所属していた弓道部についてです。初心者からのスタートでしたが、部員のサポートも

あり、楽しく充実した時間を過ごすことができました。部活動以外でも部飯や飲み会をしたり、大会後にはその土地の観光をしたりと楽しい思い出がいっぱいです。ここでできた繋がりを卒後も大切にしていけたらいいなと思います。

思うようにいかず、凹むこともありましたが、先輩や同級生、後輩の皆に支えてもらい、部活動が続けることができました。辛かった出来事も楽しかった出来事も、私が人として成長するために必要な経験だったのではないかと思います。

最後になりますが、これから社会人として働くにあたり、これまで以上の責任と覚悟を持ち、何事にも真摯に向き合っていきたいと思います。そして、先輩や同級生、後輩の皆、臨床実習で指導していただいた先生方、衛生士の方々、実習で関わった患者様、両親など多くの方に支えられて卒業を迎えることができました。心より感謝いたします。ありがとうございました。



2019年度三大戦

口腔生命福祉学科での4年間を通して

口腔生命福祉学科4年 岡田 真里奈

口腔生命福祉学科に入学してからあっという間に4年が経ち、卒業を迎えようとしています。特に最終学年のこの1年はとても目まぐるしい1年でした。病院での臨床実習、福祉実習、特論、講義、さらには就職活動とハードなカリキュラムを送ってきました。そしてこれらが終わった今は歯科衛生士と社会福祉士の国家試験に向けての受験勉強中の日々です。

学生生活で印象に残っていることといえば、やはり病院での臨床実習です。今年は新型コロナウイルスの関係で臨床実習に参加できない期間もありましたが、実際に臨床現場に出て、自分の未熟さを思い知りました。思うような動きができずに悩むこともありましたが、できなかったことができるようになった時や患者さんから感謝の言葉を頂いた時の達成感は大きく、やりがいを感じることができました。患者さん相手に診療補助や保健指導、PMTCをやらせていただけたことは大変よい経験になりました。また、実習について不安なことがあればお互いをフォローしあうことができた同期の存在はとても大きく、そのおかげで乗り越えられたと思っています。

課外活動の面では、全学のソフトテニスサークルに所属していました。そこでは様々な学部同期、先輩、後輩と出会うことができ、テニスはもちろん、お酒を飲みに行ったり、冬にはスノーボードをしたりと大学生らしい思い出をたくさん作ることが出来ました。この4年間を通して多くの人と関わる事で様々な価値観を知ることができたと感じています。非常に価値ある経験が出来ました。

新潟大学で過ごしたこの4年間は私のかげがえのない財産です。この4年の大学生活はどの思い

出も昨日のこのように思い出せるほど濃い日々でした。このように楽しく充実した日々を送ることができたのは、大学関係者の方々、自分と関わってくれた先輩や後輩また同期のみんな、そして1番は多くの時間を過ごした口腔生命14期のクラスメイトのおかげだと思っています。みなさんにはここには書ききれないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

私は春から地元石川県の大学病院で歯科衛生士として働きます。これからも勉強を止めることなく日々努力し、ここでの経験を糧に成長していきたいと思います。歯科衛生士として働くことが患者さんや地域の人々にとっての健康の寄与になることを願っています。



口腔生命福祉学科14期生との集合写真
写真撮影時のみマスクを外しました



ソフトテニスサークル「ダイクマ」での集合写真
写真撮影時のみマスクを外しました